海高式探究プログラムは、茨城県立水海道一高の、
高1、2年次の総合的な探究の時間における学習プログラム。
5社（現在は6社）の教育ベンチャーとの協働で
生徒は5つ（現在は6つ）の教科横断的なトラックから
1つを選んで探究に挑み、
各種コンテストと最終発表の海高EXPOを目指す。
2023年キャリア教育推進連携表彰最優秀賞を受賞。

海高式探究プログラム

KAIKO-STYLE INQUIRY PROGRAM

デザインが生まれた理由/背景

学習指導要領の改訂に伴い2022年から高校1年次で「総合的な探究の時間」が必修としてスタート。この時間を活用した学校の特色づくりが生徒の主体性育成の場として注目され、学校の生き残り戦略ともなっている。教育委員会も予算をつけたりしてはいるものの、各校とも手探りの中、探究のプロではない教員の負担増との折り合いがつかなかったり、生徒のやる気を引き出すことができず、満足のいく時間をデザインすることが難しい状況に陥っている。実際、多くの学校が受験対策の授業をしていたりして有効活用できていない。

年間イメージ

高1・2年 木曜5・6限 2コマ続き

探究基礎（4コマ） → 専門基礎（12コマ 最後に中間発表） → フィールドワーク（1日） → プレゼミ（8コマ） → 最終発表 海高EXPO

アート&コミュニケーション
演劇チームと映像チームに分かれ、
企画、脚本から作品プロデュース全体を学ぶ

ソーシャルイシュー&コミュニティ
地域の課題をコミュニティに入り込んで取材、
解決のアイデアをグループでつくりあげる

アントレプレナーシップ&マーケティング
新しい商品やサービスを考えてビジネス化、
さまざまなコンテストにもチャレンジ

デジタル&イノベーション
WEBデザイン、ゲームプログラミング、ロボットの
3つに分かれ、実際にプロトタイプをつくってみる

ネイチャー&サイエンス
自然科学のさまざまな可能性を学び、
自分だけの研究を目指す

探究リーダーズ
テーマは自由、コンテスト受賞を目指し
それを進路につなげていく探究ガチ勢（今年度新設）

デザインのポイント

- 高校1、2年次でこれからの社会に必要となる5つ（現在は6つ）の教科横断的なトラックをオリジナルで設定
- 5つ（現在は6つ）のトラックを5社の教育ベンチャー企業がそれぞれ担当し、教員とともにプログラムを運営
- 生徒は自分に合ったトラックを選んで参加するため、最初からモチベーションが高くスタートできる
- 高校1、2年次を同時展開（通常の学校ではやらない）のため、2年次は2周めを選んでもよいし、別のトラックに変えてもよい
- 2年次が1年次を自然に引っ張る構図になりより主体性を引き出す
- 生徒有志による探究委員会が発足、トラック間の情報共有や、校外への情報発信を生徒主体で行う

探究委員会の様子

デザインを実現した経緯とその成果

2022年に民間校長として採用された本企画デザイナーの福田が（株）電通からの出向で副校長に就任し、2023年には校長として本企画をリード。副校長時に本企画をデザインし、5社の教育ベンチャーに協業を持ちかけ、県教委にプレゼンすることでチャレンジプロジェクトと呼ばれる予算を重点校という最高クラスで獲得することができた（それまではゼロ）。その上で、キャリア探究部という新しい校務分掌（部署）を立ち上げ、年間計画に落とし込み、2023年度、校長1年時からのスタートに成功した。5社の新進気鋭の教育ベンチャーが公立高校1校に集まることは例がなく、本企画は初年度にも関わらず2023年の文部科学省、経済産業省が主催する第12回キャリア教育推進連携表彰において、最優秀賞を受賞した。2年目には探究リーダーズというコンテスト受賞を進路につなげるトラックを新設し、教育ベンチャーも6社に増えた。

担当ベンチャー企業

〈アート&コミュニケーション〉
TWICE PLAN
A New Style Education for School

〈デジタル&イノベーション〉
DJ Robotics

〈ソーシャルイシュー&コミュニティ〉
MIETA+

〈ネイチャー&サイエンス〉
筑波大学発ベンチャー
株式会社インセプタム
INCEPTUM

〈アントレプレナーシップ&マーケティング〉
Gaiax

〈探究リーダーズ〉
BYD